

5 試験研究の取組と漁業取締船

水産試験研究機関

県内の水産試験研究機関は、東日本大震災により内水面水産試験場を除き壊滅的な被害を受けましたが、平成28年に全ての施設の復旧が完了しました。今後は復旧した試験研究機能を活用し、「宮城県水産業試験研究構想」に基づき、水産業関係者、国や大学等の研究機関、県内関係機関と連携しながら効率的に試験研究を実施するとともに、得られた研究成果を関係者に速やかに普及していきます。



水産試験研究機関の概要

①水産技術総合センター（本所）

〒986-2135 石巻市渡波字袖ノ浜97-6

本県中・南部地域における養殖業に係る技術の指導・改良・開発や調査船による漁業資源調査・海洋観測、仙台湾や松島湾などの漁場環境調査、魚病等に係る調査研究及び水産物利用・加工の試験研究などを行っています。

④水産技術総合センター 水産加工公開実験棟

〒986-0022 石巻市魚町2-2-3

原料の処理から加工製品を作る設備などの機械設備を多数導入し、水産加工業者との共同研究、製品開発・改良等への技術支援・6次産業化への支援などを行っています。

②水産技術総合センター 気仙沼水産試験場

〒988-0241 気仙沼市波路上岩井崎107

本県北部地域における沿岸漁業・養殖業の生産性向上のため、ワカメ、ホタテガイ、カキ等の養殖技術の指導・改良・開発、アワビ、ウニ類等の資源管理・増養殖技術の開発、気仙沼湾や志津川湾の漁場環境調査などを行っています。



⑤水産技術総合センター 種苗生産施設

〒985-0812 宮城県七ヶ浜町松ヶ浜字浜屋敷142-1

栽培漁業の拠点として県と（公財）宮城県水産振興協会が連携して、アワビやアカガイ、ホシガレイの種苗生産、ヒラメの中間育成などを行い、種苗の配布や放流を行っています。

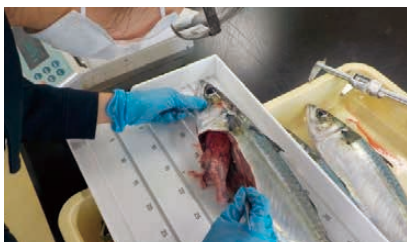


③水産技術総合センター 内水面水産試験場

〒981-3625 黒川郡大和町吉田字旗坂地内

サケ・マス類の増養殖技術の改良や普及指導のほか、アユの遡上状況調査や河川の漁場環境調査結果の情報提供を行っています。

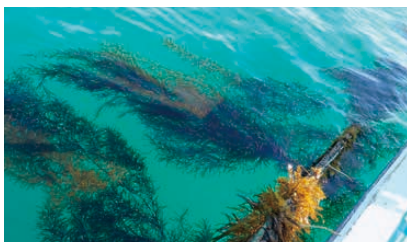
試験研究の主な取組



県内で水揚げされる魚の生態を調べるため、大きさや体重、胃の内容物や生殖腺を調べています。これらの基礎生態情報は資源評価や資源管理に役立てられます。



種ガキ(カキ幼生)の発生状況や海での分布状況について、迅速に漁業者へ情報提供できるようにするため、AI化・ICT化に取り組んでいます。



生産者に向けて、本県水産業への地球温暖化の影響、ブルーカーボンに関する理解の促進を図っています。また、海水温上昇に対応した新たな養殖種の試験養殖に取り組んでいます。



加工企業からの相談に対する技術的支援や、水産加工品の新たな原料となり得る魚種についての研究等を行っています。



岩礁域の水産資源を持続的に利用できるよう、アワビ・ウニ類の資源量調査や海中造林のためのアラメ種苗の生産を行っています。



ギンザケ高成長系統の実証試験と普及、全雌三倍体イワナ(伊達いわな)の種苗生産と配布を行っています。

漁業取締船

漁業者の安全・安心な操業と水産資源を守るため、違法操業や密漁の監視・取締まりを行い、漁業秩序の維持に努めています。

漁業取締船「うみたか」

総トン数 / 61トン 竣工 / 平成27年11月27日

取締海域 / 宮城県沖合海域



漁業取締船「うみわし」

総トン数 / 65トン 竣工 / 令和元年12月25日

取締海域 / 宮城県沖合海域



漁業調査指導船

最新の調査機器を装備して海洋観測、資源調査等を行っています。これらの観測データは、他県や各研究機関とも共有され、海況予報や漁場把握等に役立てています。

漁業調査指導船「開洋」

総トン数 / 19トン(長さ15.90m、幅4.30m、深さ1.50m)

主機関 / ディーゼル機関610kw

最大速力 / 17.9ノット

航海速力 / 15.1ノット

乗組員 / 5名

竣工 / 平成25年3月27日

調査海域 / 沿岸域



漁業調査指導船「みやしお」

総トン数 / 199トン(長さ36.07m、幅7.60m、深さ3.20m)

主機関 / ディーゼル機関1,471kw

最大速力 / 14.5ノット

航海速力 / 13ノット

乗組員 / 16名

竣工 / 平成26年3月31日

調査海域 / 沖合域

